

自然史博物館

人と自然の共生をめざして

千地万造著

より楽しめる博物館・より開かれた博物館を求めて、国内外の博物館創設に深くかかわった豊富な経験を通して、さまざまな例を挙げながら、自然との共生をめざす社会のための、新しい自然史博物館像を語る。



A5判・上製／カバー装・256頁

定価：本体 4500円+税

自然史博物館の存在意義は何か？
展示はどう構成されるか？

市民のニーズに応えるサービスとは？
大人も子供も楽しめる博物館とは？

生涯学習社会にどんな役割をはたすのか？

<本書の特徴>

- ヨーロッパ、アジア、アメリカの代表的な自然史博物館の活動を紹介。それぞれの成立の歴史、展示の特徴などを解説。とくにアメリカ・カナダなど、楽しめる展示・子供のための体験学習に力を入れる活動の様子などをくわしく紹介する。
- 日本の自然史博物館の成り立ちを解説。明治維新时期、田中芳夫が「大阪舎密局」にはせた壮大な夢を探り、国立科学博物館と大阪市立自然史博物館を中心に、日本の自然史博物館の歩みを語る。
- 日本の代表的な自然史博物館の展示と活動を紹介。大阪市立自然史博物館をはじめ、千葉県立中央博物館、神奈川県立生命の星地球博物館、滋賀県立琵琶湖博物館などの新しい試みをくわしく紹介しながら、日本の自然史博物館の課題を浮彫にする
- 自然史博物館の展示のあり方を考える。展示を構成するうえで重要となるのは調査・研究と資料の収集であり、展示の組み立て方・説明の仕方をおもしろくするためには、博物館＝学芸員集団の自然史観の確立こそが重要であることを解く。
- 生涯学習社会への貢献を考える。子供から大人まで、楽しめる博物館の具体像を示し、博物館による「市民サービス」のあり方、家庭・学校との協力の仕方などを提案する。